

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 6日現在

機関番号：12601
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20401020
 研究課題名（和文） 湘南土話の総合的研究

研究課題名（英文） A general study on the unclassified languages spoken in the southern Hunan province of China

研究代表者

吉川 雅之（YOSHIKAWA MASAYUKI）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：30313159

研究成果の概要（和文）：

本研究では、中国湖南省南部で話されている系統未詳の「湘南土話」とその話者集団を研究対象として、言語学と建築学、歴史学から野外調査を行った。言語班では、重点調査地点を選定し、言語体系の記述を行った。そして通時的視点からその成立過程を明らかにしつつある。また、土話の成立過程の解明に関しては、言語を対象とした一面的考察では不十分であると考え、建築や歴史に関する調査の助けを借りることで、話者集団の形成を多面的に考察することを目指した。

研究成果の概要（英文）：

In this study, we have carried out researches on the vernacular languages spoken in the southern area of Hunan province of China and the ethnic group through fieldwork mainly from the viewpoints of linguistics, and besides, of architecture and history. There are various academic opinions on the language family of the vernaculars. The team of linguistics in this study chose some dialects of the vernaculars as main subjects, and has obtained description on the whole system of them. We are demonstrating the diachronic process of the formation of the vernaculars now. In addition, we tried carrying a multilateral investigation into the diachronic process of the formation of the ethnic group of these vernacular languages with the help of the research on architecture and history, because we think that the multidisciplinary perspective is effective on it.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成20年度	2,900,000	870,000	3,770,000
平成21年度	2,800,000	840,000	3,640,000
平成22年度	3,000,000	900,000	3,900,000
平成23年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
総計	10,500,000	3,150,000	13,650,000

研究分野：中国語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：土話・平話、漢語、勉語、伝統的家屋、空間の構造・使用・観念、物質文化、家系図、中国湖南・広東・広西

1. 研究開始当初の背景

湘南土話は湖南省最南部の永州地区と郴州地区に分布する方言群の総称であり、周囲

の漢語系諸語（粵語、客家語、湘語など）とは異なる特徴を多く有する。その一方で、語彙特徴から基層には非漢族である瑶族の勉

語（ミエン語）が存在する可能性が有り、華南においてどのように漢語が浸透していったかを問う上での重要な言語資料を蔵する。しかしながら、湘南土話の分布地域と下位分類については、まだ全体像が明らかにされていないとは言い難い。加えて、系統上の位置付けについては、漢語説と非漢語説の双方が有り、前者はさらに幾つかの説に分かれる。

2. 研究の目的

本研究は土話の成立過程の解明を目的とする。そのために、野外調査という手法を用いて、言語体系全体の記述を重点的に行う。収集したデータに基づいて、通時的視点からその成立過程を考察し、漢語と非漢語の間における位置付けを提唱することを中期の目標とする。将来的には中国華南における漢語史を再検討する材料としたいと考えている。

なお、土話は少なからざる地点で、若年層への継承が行われておらず、消滅が懸念される「危機言語」にリストアップされるべき言語である。そのため、その音韻・語彙・文法にわたる言語体系の記述は、研究者として行わねばならぬ最低限の任務であると考えている。

3. 研究の方法

野外調査を主な手法として、湘南土話の中で保守的な形を留める江永県と江華瑶族自治县の土話、さらにはそのコミュニティに対する考察を行った。土話の成立過程の解明を目指すには、言語調査のみによる一面的考察では不十分であると考え、建築学や歴史学の助けを借り、当該話者集団の史的形成という最終的な課題を見据えた研究体制を敷いた。

研究体制は次のとおりである。

- (1) 言語班（吉川他）
- (2) 建築班（連携研究者 溝口）
- (3) 歴史班（連携研究者 ダニエルス）

言語学（中国語学）を中心としつつ学際的研究が行えるようになってきている。なお、言語学と建築学、歴史学の共同研究は、日本・中国を問わず大変珍しい試みである。

野外調査の主な内容は、次のとおりである。

- (1) 言語班：
 - ① 江永・江華両県の言語種と分布状況についての聞き取り調査。
 - ② 重点調査を行うに値すると判断された土話に対する、言語体系（音韻・語彙・文法）の調査と記述。
 - ③ 建築班作成の画像入り統一フォーマット調査票を使用した、伝統的家屋の構成要素と建築物に特化した語彙調査。
- (2) 建築班：
 - ① 土話や勉語の話者の伝統的家屋に対する実測調査、及び図面の作成。
 - ② ①で作成した図面を用いての、家屋を構成する室の名称と位置・用途の調査。

(3) 歴史班：

① 土話や勉語の世帯に対しての、移入経路の聞き取り調査と家系図の調査。

この中で、(1)③と(2)②は、家屋・村落における空間の構造・使用・観念についての考察を試みる上で、重要なデータとなる。空間の構造・使用・観念は、最終的な課題である当該話者集団の史的形成を考察する際に、重要な判断材料の一つとなろう。

4. 研究成果

平成 20 年度から 22 年度までは春季と秋季に各 1 回、平成 23 年は秋季に 1 回、合計 7 回の野外調査を行った。調査地点の大多数は永州地区の最南部である江永県と江華瑶族自治县に位置している。4 年間の調査で達成できたことは、次の (1) から (3) である。

(1) 言語班：

① 従来粗雑な記述しかなくこななかったために、大部分が不明であった両県全域の言語種と分布状況を、行政村レベルまで明らかにした。

② 重点調査地点として調査を行った複数地点の土話について、音韻・語彙・文法の特徴を明らかにした。今後は継続調査を行い、なるべく速やかにモノグラフ形式で公開する予定である。

③ 建築班が作成した画像入り統一フォーマットの調査票を使用して、伝統的家屋の構成要素と建築物に特化した語彙調査を、言語種の異なる 11 地点で行った。収集した語形が示す空間観念の類似性に注目することで、過去に起きたと見られる言語接触の痕跡を明らかにした。今後は継続調査を行い、地点数を増やすことで、更に踏み込んだ考察を行う予定である。

(2) 建築班：

① 土話や勉語の話者の伝統的家屋約 50 棟に対して実測調査を行い、図面を作成した。

② ①で作成した図面を用いて、家屋を構成する室の名称と位置・用途の調査を行い、寝室の語形が位置・用途と関係を有することを明らかにした。

(3) 歴史班：

① 土話や勉語の数世帯に対して、移入経路の聞き取り調査と家系図調査を行った。

以上の知見について、調査者は個別に学会会議で口頭発表を行ってきたが、特に最新の知見については、言語学と建築学の学際的研究として、第 1 回中国方言文化国際学術討論集会で口頭発表を行った。

また、東京大学大学院に在学する院生 3 名には、研究代表者や連携研究者の調査の補助を行ってもらい一方で、別途地点を選定して土話の調査と記述を行ってもらった。その成果は、平成 23 年度に提出された修士学位論

文2点、①白水波子「[p]から[l]への通時的音変化—湖南省・松柏土話の音韻—」（東京大学大学院総合文化研究科）と、②濱田武志「湖南省江華瑶族自治県の梧州話の粵語に於ける系統論的位置付け」（東京大学大学院人文社会系研究科）にまとめられている。濱田氏の修士論文は大変秀逸な内容であり、平成23年度第2回東京大学総長賞を受賞した。

その他に、一部の研究者によって土話との系統上の関係が指摘されている粵語（即ち広東語）について、より早期の姿を把握することが問題の解決に不可欠であるとの認識から、吉川は従来研究が行われてこなかった19世紀中期及びそれ以前の粵語文献を国内外で発掘し、そこに欧文で記される漢字音についての整理と分析を進めた。そして漢字音の特徴の指摘とそれに基づいた基礎方言の特定を、本研究の成果の一つとして、口頭発表や論文で行った。

さらに、吉川は湖南南部・広東北部・広西東部北部に分布する土話を扱った論著の目録（試作版）を作成し、ホームページに掲載した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

①吉川雅之、溝口正人、言語研究から伝統的民家の調査と保存を考える、第1回中国方言文化国際学術討論集會予稿集、2012、pp. 151-160.

②伊丹祐介、溝口正人、中国湘南地域の民家の平面構成について瑶族民家と周辺民家の比較による分析、日本建築学会東海支部研究報告集第51号、2012、pp. 749-753.

③吉川雅之、レグ編 Lexilogusに記される粵語音の表記と体系、東洋文化研究所紀要、査読有、2011、vol. 160、pp. 226-258.

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/bitstream/2261/50163/1/ioc160005.pdf>

④吉川雅之、關於第三份早於《廣東省土話字彙》的歐文資料、Programme Booklet, the 16th International Conference on Yue Dialects、2011、p. 8.

⑤吉川雅之、ヴァチカン図書館蔵『新遺詔書』に記される粵語の方言音、日本中国語学会第61回全国大会予稿集、2011、pp. 67-71.

⑥濱田武志、湖南省江華瑶族自治県の梧州話の連読変調に見られる非漢語性、日本中国語学会第61回全国大会予稿集、2011、pp. 57~61.

⑦吉川雅之、兩份早於馬禮遜的粵語資料、粵語跨學科研究：第十三屆國際粵方言研討會論

文集、査読有、2009年、pp. 287-304.

〔学会発表〕（計22件）

①吉川雅之、溝口正人、言語研究から伝統的民家の調査と保存を考える、第1回中国方言文化国際学術討論集會、2012年3月8日、金沢大学。（招待発表）

②ダニエルス・クリスチャン、史料にみられる樹木利用—東南アジア大陸部北部を中心に、国立民族学博物館共同研究「プラント・マテリアルをめぐる価値づけと関係性」第8回共同研究会、国立民族学博物館、2012年3月6日.

③吉川雅之、關於第三份早於《廣東省土話字彙》的歐文資料、The 16th International Conference on Yue Dialects、2011年12月15日、香港城市大學.

④吉川雅之、ヴァチカン図書館蔵『新遺詔書』に記される粵語の方言音、日本中国語学会第60回全国大会、2011年10月30日、松山大學.

⑤濱田武志、湖南省江華瑶族自治県の梧州話の連読変調に見られる非漢語性、日本中国語学会第60回全国大会、2011年10月30日、松山大學.

⑥溝口正人、中国と日本の家族と生活様式—漢族および少数民族の住まいに関するフィールドノートから—、名古屋市女性会館講座、2010年11月24日、名古屋市女性会館.

⑦吉川雅之、J・レグ編 Lexilogusに記される粵語音、日本中国語学会第60回全国大会、2010年11月14日、神奈川大學.

⑧ Yoshikawa, Masayuki、Differences between the Cantonese spoken in Canton City and a Canton suburb in the 1830s、The 18th Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics & The 22nd North American Conference on Chinese Linguistics、2010年5月20日、Harvard University.

⑨ダニエルス・クリスチャン、一八世紀後半～一九世紀前半における地域住民の天然資源保護・管理—元江流域・メコン河流域を事例として、2009年史学会107回大会：公開シンポジウム「環境と歴史学」、2009年11月7日、東京大学（本郷キャンパス）.

⑩吉川雅之、『中國言法』に記される漢字音の複層性について、日本中国語学会第59回全国大会、2009年10月25日、北海道大學.

⑪ Christian, Daniels、C18-19th Stone inscriptions concerning the environment from Yunnan Province, China、Needham Research Institute Text Reading Seminars、Michaelmas Term 2009、2009年10月16日、Needham Research Institute.

⑫ダニエルス・クリスチャン、雲南の天然資源保護・管理に関する史料とその解釈—18世

紀～19世紀を中心として、中国環境史ワークショップ：環境史の視点とその史料をめぐって、2009年9月18日、明治大学（駿河台）。

⑬吉川雅之、馬士曼著作中の官話音、The 17th Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics、2009年7月3日、Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales.

⑭田口善久、湖南省江華県におけるミエン語調査 2009. 3、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「タイ文化圏における山地民の歴史的研究」2009年度第一回研究会「山地民の言語—湖南省南部の言語群」、2009年4月12日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。（招待発表）

⑮吉川雅之、湖南省江華県の言語調査——土話の分布と特徴、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「タイ文化圏における山地民の歴史的研究」2009年度第一回研究会「山地民の言語—湖南省南部の言語群」、2009年4月12日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。（招待発表）

⑯吉川雅之、兩本早於馬禮遜的粵語資料、The 13th International Conference on Cantonese & Yue Dialects、2008年12月19日、香港城市大學。

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

研究代表者のホームページ

http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~hongkong-macao/grant-in-aid_2008-2011.html

湖南・広東・広西の境界付近に分布する土話についての学術論著の目録（試作版）

http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~hongkong-macao/list_studies_vernacular_languages_XN_YB_GD.htm

東京大学総長賞のホームページ

<http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/PDF/jushosha.pdf>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉川 雅之 (YOSHIKAWA MASAYUKI)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：30313159

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

ダニエルス・クリスチャン (DANIELS CHRISTIAN)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：30234553

ラマール・クリスティーン (LAMARRE CHRISTINE)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授（平成21年8月まで）

研究者番号：30240394

朱 新建 (ZHU XINJIAN)

愛知学院大学・教養部・外国人教師

研究者番号：90319187

田口 善久 (TAGUCHI YOSHIHISA)

千葉大学・文学部・准教授

研究者番号：10291303

溝口 正人 (MIZOGUCHI MASATO)

名古屋市立大学・大学院芸術工学研究科・准教授

研究者番号：20262876

広瀬 友紀 (HIROSE YUKI)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：50322095

以下、研究協力者

陳 薇 (CHEN WEI)

東京大学・大学院総合文化研究科・博士課程

白水 波子 (SHIRAMIZU NAMIKO)

東京大学・大学院総合文化研究科・修士課程

濱田 武志 (HAMADA TAKESHI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・修士課程